

特定非営利活動法人 クリエイティブサポートレッツ
平成 25 年度事業報告(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

(1) 障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	
生活介護・自立訓練（生活訓練）・就労移行支援	
担当：尾張・水越・佐藤	
<p>障害者総合支援法に基づき、生活介護・自立訓練（生活訓練）・就労移行支援事業を行った。月平均 1 2 名程度が利用した。25 年度の主な事業は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①利用者ごとのプログラム提供・支援を継続。毎日の支援記録のフォーマットを改善 ②「レディオ体操」（毎日のラジオ体操）を行い、イベント等に出演したほか、2 月に発表会を開催 ③一日を別の場所で過ごす「ミニミニアルス・ノヴァ」を各地で開催 ④個々の利用者に合わせたイベント等への出演を実践 ⑤支援の事例を学会にて発表 ⑥専門家を招いて音楽ワークショップを開催 ⑦体験強化月間を開催 ⑧動画会を開催 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ①個々人の特性に合わせた支援記録用紙のフォーマットを作成、実験した。支援会議と連動するかたちでより個人のようにすがわかる様式に改善。今後も改善を継続していく。 ②25 年度文化センター事業である「レディオ体操」を 4 月から実践。毎日の練習とともに、6 月の路上演劇祭を皮切りに、福祉まつり等のイベントに出演した。2 月 16 日の発表会に向けて、場所に慣れるため、会場である鴨江別館に何度も出かけて練習を重ねた。 ③利用者のもつ魅力を多くの人に知ってもらうため、施設内の活動と同じ過ごし方を別の場所でも実践する試み「ミニミニアルス・ノヴァ」をスタートさせた。毎回訪問して下さる固定客も現れ、一定の効果があった。 ④利用者個々人のタレントを世に送り出すという視点から、利用者全員で出るイベントだけではなく、個々の特性に合わせたイベント出演をプログラムし、実践した。（ポコラート出展・ムラキングの詩・燎さんと散歩・亮賀さんの ABC 描き等）。高橋舞さんがポコラートに出店したガムテープ作品「はってるかんじ」は新聞にも掲載され、「ポコラート宣言」（2292 人の作家の中から選ばれた 54 による展覧会）で展示され話題となった。 ⑤対人援助学会において、利用者である尾形和記さんへの支援について水越から発表をした（コーディネート石幡）。好きなことを抑えるのではなく、伸ばしていくことの可能性について。 ⑥月に一度、ドラマーの梶原徹也さんを招き、利用者向けの音楽ワークショップを行った。また、音楽家のマッスル NTT さんも毎月ワークショップやレディオ体操練習に訪れ、音響機器の利用法等を指導し、楽しめる音楽の幅が広がった。 ⑦1 月 14 日から 1 か月間、地域や学校、保護者向けにアルス・ノヴァを紹介するイベント「体験強化月間」を行った。地域の方との餅つきや、景品交換、音楽イベント、豆まき大会、施設内での「佐藤は見た!!!!!! プラス」のミニ展示、利用者紹介カード、アルス・ノヴァの説明会と見学ツアー 5 回等、様々なイベントを行なった。 ⑧月に一度、スタッフが撮りためた利用者の動画から選りすぐりのものを鑑賞する「動画会」を開催した。スタッフのほか、保護者のほか外部の参加者も来ていただけた。 <p>参加したイベント：路上演劇祭、ゆりの木通り手作り品バザール、ポコラート全国公募展、ス</p>

	トリートフェスティバル静岡、福祉まつり、七夕まつり、遠州横須賀街道 ちっちゃな文化展、秘密の前夜祭、西区ふれあい祭り、PTA 夏祭り、東北ライブ
(2) 障害者総合支援法に基づく相談支援事業	
今年度事業実施なし	
(3) 障害者総合支援法に基づく特定相談支援事業	
今年度事業実施なし	
(4) 児童福祉法に基づく障害児通所支援事業	
放課後等デイサービス	
担当：山下	
放課後等デイサービスを実施。放課後・土曜日・長期休暇の障害児への学童保育。25年度の主な事業は次の通り。	
<ul style="list-style-type: none"> ①教育心理学会にて支援記録用紙の発表を行った ②子どもを守る文化会議分科会にて事例発表を行った ③対人援助学会において事例発表を行った ④長期休みの支援を充実させた ⑤体験強化月間を開催。 ⑥危機管理体制を強化した 	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ①放課後等デイサービスの支援終了後に毎日行う記録用紙「人マトリックス（ヒトマト）」の実践を例に「障害児支援における支援員の実践と省察の円環的発達」と題し石幡が発表を行った。ヒトマトが持つ支援員の育成の側面に焦点を当てた発表であった。 ②静岡文化芸術大学で行われた「子どもを守る文化会議」において、障害児支援の事例として、山下からユキライブ、田中からジャロ辞典の発表を行った。 ③対人援助学会において、山下よりユキライブについての支援事例発表を行った。歌を歌うのが好きだが人とあまり関わりを持たないユキさんにたいし、「ライブ」という形式をとることにより、多くの他の児童やスタッフを巻き込んだイベントの主役とした事例。 ④夏季休暇中に十分な支援を行えず、またスタッフも疲弊することから、25年度は受入児童数を若干減らし、余裕をもった支援を行う試みを行ったところ、余裕をもった支援が行えた。 ⑤上記（1）～⑦に同じ。 ⑥成人のスタッフと協力し、防災訓練の回数を増やすとともに、備蓄品についても改めて見直した。
(5) 児童福祉法に基づく障害児相談支援事業	
今年度事業実施なし	
(6) 文化センター事業	
①福祉施設を核とした地域パフォーマンス集団結成プロジェクト（レディオ体操）	
担当：佐藤	
アルス・ノヴァで毎日行う「ラジオ体操」が、利用者それぞれの特長を浮彫りにするという気づきから、ラジオ体操の枠からはみ出してしまうような表現を舞台化するプロジェクト「レディオ体操」を25年度の主な事業とした。	
期間	2012年4月～2014年2月
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●毎日の体操 毎日レディオ体操を行い、メンバー、音楽、場所などさまざまな形態を試した。 ●福祉まつり、七夕まつり、遠州横須賀街道 ちっちゃな文化展、秘密の前夜祭、西区ふれあ

	<p>い祭りで出演</p> <p>ラジオ体操という親しみのある演目であることから、出演の声掛けを多くいただいた。また、多くの一般の方々の飛び入り参加があった。</p> <p>●レディオ体操発表会</p> <p>2014年2月16日、鴨江別館にてレディオ体操発表会を行った。発表会に向けたアドバイザーとして、ダンサーの北村成美氏、片岡祐介氏、マッスルNTT氏を迎え、共演した。また、レッツとしては初めて照明、音響、映像編集のプロたちと仕事をすることができ、スタッフ達にとって勉強になることが多かった。</p> <p>発表会の反響は大きく、大きな刺激を受けた、考えさせられたという感想があった。また、この発表会の縁で障害者の仕事情報誌「コトノネ」にレディオ体操の記事が掲載されることとなった。</p>
主催	アルス・ノヴァ
協賛	AAF 実行委員会（50万円）、浜松市みんなのはままつ創造プロジェクト（100万円）
②福祉施設製品等調査研究事業	
担当：加藤・庵原	
<p>9月から庵原、10月から加藤の2名を雇用し「福祉施設製品等調査研究事業」（通称ブランディング事業）を開始。「起業支援型地域雇用創造事業」の委託業務であり、レッツがアルス・ノヴァで推進している「障害というタレント（才能）」のプロデュースをベースに、障害のある人の新しい仕事の在り方としてのコミュニティビジネスの可能性を探っている。</p>	
期間	2013年9月～2014年8月
内容	<p>●アドバイザー比留間氏の招聘</p> <p>アドバイザーとして、ブランディングの専門家である比留間雅人、アドバイザーとして理事の伊藤裕夫氏を招いた。</p> <p>比留間氏は事前にスタッフ1名1名にヒアリングを行い、ブランディングの基礎となるレッツの中核となる考え方を調査した。</p> <p>●合宿</p> <p>9月初旬、正規スタッフ11名および比留間氏・伊藤氏との合宿を行った。ブランディングとは何かを学び、レッツならではの強みとは何かについてブレインストーミングを行った。</p> <p>●調査</p> <p>①庵原・加藤がアルス・ノヴァでの障害者との仕事を理解すると同時に、障害の特性を知り、レッツならではの商品とは何か知識を蓄えた。</p> <p>②他障害福祉施設の現状を把握するために、特に障害のある人の表現活動を行っているイベントや学会、フォーラムに参加。（コミュニティダンスフェスティバル、糸賀記念音楽祭、アートミーツケア学会、アートNPOフォーラム神戸）</p> <p>●実践</p> <p>実際に新しい仕事の在り方を模索するための様々な実験を行った。</p> <p>①利用者である関口しのぶさんが4年がかりでまとめた自伝『障症』を出版、販売。</p> <p>②アルス・ノヴァならではの視点を他者に伝えるツールとして、ドキュメント展『佐藤は見た!!!! プラス』冊子を刊行。</p> <p>③商品販売のツールとしてウェブサイトを整備（26年度も継続中）</p>
主催	クリエイティブサポートレッツ
助成	浜松市（678万円）

③INFO LOUNGE 事業	
担当：鈴木	
内容	<p>2013 年はスタッフ横村、久保田がメインに運営。 情報センター「たけし文化センターINFO LOUNGE」の運営、万年橋駐車場の管理業務、万年橋駐車場を核として周辺地域との連動を生むための整備・企画運営を行い、周囲に日常的な人の流れを作ると共に地域への魅力のアピールにつなげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報センター営業時間 平日 11 時半～19 時半／休日 11 時半～19 時半 水曜定休 ・駐車場管理時間 11 時半～16 時（水曜を除く） ・駐車場 8 階の多目的スペース、7 階シェアオフィス、9 階シェアハウス運用のアドバイス、企画相談受け付け、商店会（田町東部繁栄会）への参加、など
業務委託元	駐車場業務委託：田町パークビル株式会社（140 万円）
主催	クリエイティブサポートレッツ
④Beyond the boundaries	
担当：鈴木	
<p>昨年の文化センター事業「ユリリンキノキ」では、ゆりの木通りで起こっている大小様々なプロジェクトを 2 ヶ月にまとめてイベント化したが、25 年度は静岡文化芸術大学と連携し、対象を市内全域に広げ、市民自らがプロジェクトを起こしている 14 の事例を展覧会とカタログにまとめて紹介した。これは、地方都市におけるプロジェクトの在り方が、大都市のそれとは性質が違うとの仮説から、市民ひとりひとりの小さな創造力が暮らしに強く結びつきながら他分野へと根を広げていくようすを、見える形として提示したものである。この事業ではレッツとして初めてカタログ・展覧会デザイン制作チームを結成し、企画段階からミーティングを重ねた。なお、この事業を最後に文化センター事業のディレクターであった鈴木が退職し、26 年度以降この事業は鈴木の新会社が継続的に行われることとなった。</p>	
期間	2013 年 8 月～2014 年 4 月
内容	<p>①プロジェクト取材 編集者・紫牟田伸子氏を迎え、各プロジェクトを取材後、企画・デザインチームで検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル注染ゆかた ・Simple Forest ・じいじばあば萌え ・本と遊びの家 ・TAKE SPACE ・ZING ・レディオ体操 ・月いち民謡舞踊と、創作盆踊り ・ぶっとびアート ・BED プロジェクト ・浜松市根洗学園 ・非常用リチウムイオン電池電源装置開発とまちづくりへの展開のためのアート作品制作 ・RE/Real Education ・万年橋パークビル <p>②展覧会の開催 名称：Projectability～この街で起きていることはどうしておもしろいのか～ 会場：旧文泉堂書店 会期：平成 26 年 3 月 1 日～3 月 23 日</p>

	<p>来場者：340名</p> <p>③カタログの制作 カタログを二種制作。事業の簡単な紹介を行うビジュアル重視のカタログと、取材内容を盛り込んだ143ページのカタログの二種。</p>
助成	浜松市みんなのはままつ創造プロジェクト（100万円）
主催	クリエイティブサポートレッツ、静岡文化芸術大学（73万5千円）
④カルチャースクール事業	
担当：夏目	
<p>①浜松市根洗学園での出張音楽ワークショップ</p> <p>②ワークショップ Art in Comunity2 の開催</p>	
内容	<p>①音楽家片岡祐介氏を招き、障害のある未就学児のクラスで即興のピアノ連弾を行った。</p> <p>②主に生熊涼太さんが参加者となり、制作を行った。</p>
主催	クリエイティブサポートレッツ
⑤その他事業	
<p>その他、文化センター事業として、以下の事業を行った。</p> <p>①トークイベント「見方を変える 現場が変わる」 開催日：2013年11月24日 場所：静岡文化芸術大学総合演習室 来場者：30名程度 内容：『地域を変えるソフトパワー』刊行記念全国縦断トークツアーの1拠点として開催。アルス・ノヴァで行われている支援の事例（燎くん散歩、ジャロ辞典等）を担当スタッフから発表し、固定概念でとらえられがちな物ごとを違う視点から観てみることにより、違う価値観を得ることができることを紹介した。その後、トーク主体者である加藤種男氏を中心に参加者たちとの語りの場が広がり大変意義のある会となった。</p> <p>②東北記録映画三部作鑑賞会 開催日：2014年3月3日 場所：鴨江別館 来場者：15名程度 内容：東日本大震災の津波被災者の語りを収めたドキュメンタリー映画の自主上映会を行った。「アルス・ノヴァの日常をいかに他者に伝えるか。寛容性のある社会に向けて、どのような伝え方が有効なのか、ということ」をテーマに、映画という方向性を探るために開催。ドキュメンタリー映画の監督からスタッフへのアドバイスやドキュメンタリー映画の可能性について考える機会となった。</p> <p>③こども環境学会発表 事務局スタッフ石幡が平成24年度事業である「みんなの居場所」の成果について、こども環境学会で研究発表を行った。</p>	
(7) その他、本会の目的を達成するのに必要な事業	
仮認定 NPO 申請を行い、1月に承認された。	